一十四孝の研究 宋・遼・金の孝子図と『孝行録』―

梁

初めに

つある図像資料との関係は未だ解明されていない。 十四孝のテキストは中国では散佚したものもあり、むしろ日本に遺存していて、そうした日本伝存資料と近年発見されつ る研究が始まっている。中でも、魏文斌・師彦霊・唐暁軍諸氏や、段鵬琦氏や趙超氏の研究が注目される一。しかし、二 近年、中国の古墓に頻繁に孝子図が発見され、これらの孝子図を解読し、図像を通して二十四孝の成立を追求しようとす 料である。二十四孝を研究するための資料としては、孝子説話資料のテキストのほか、図像資料としての孝子図がある。 二十四孝は中国古孝子説話資料を基盤として生まれた二十四話の孝子譚の総称で、孝という概念を考える上で重要な資

両軸として、二十四孝のテキストの系統の分岐を探ろうとするものである。 (一三四六)年、高麗で成立した二十四孝のテキストである『孝行録』との関係を明らかにする。更に図像・テキストを 本稿は宋・遼・金の孝子図を整理した上で、孝子図とテキストとを照らし合わせ、 宋・遼・金の孝子図と元の至正六

た一。その中で二十四人全員が揃ったものは以下のようである(番号は氏の論文に従う)。 最近、 黒田彰氏は「孝子伝の図―宋・遼・金を中心とする―」において、 五十一点の宋・遼・金の孝子図を挙げられ

遼。金 宋 5 1 3 2 4 П П III | | | | П 11 | 4 9 5 16 山西芮城永樂宮旧祉潘徳冲墓七 鞏県西村宋代石棺工 河南林県城関宋墓三 山西潞城県北関宋代甎雕墓本 洛陽北宋張君墓画象石棺圖

6 Ⅲ—14a山西長子県石哲金代壁画墓へ

8 Ⅲ—19 山西長治安昌金墓+

7

Ш

1 5

山西永済金代貞元元年青石棺丸

9 Ⅲ—22 b『甘粛宋元画像甎』所収画象甎+

11 Ⅲ—23 山西稷山金墓馬村M4+=

10

Ш

-22c清水電峡金墓等二十四孝図+

12 Ⅲ-24 山西新絳南范庄金墓+8

13 Ⅲ-26 山西沁県金代甎雕墓士

10・12・13の九点である。 二十四人の孝子が確認されるのは十三点である。この十三点の中で更に榜題もほぼ揃ったのは2・3・5・6・7・8 10は調査報告に不明な点が多く、 12は榜題が剥落し、今回対象外とする。 また7に

ついては後述する。よって2・3・5・6・8・13を対象として、これらに刻まれた孝子を列挙すると、以下のように (配列は順不同)。

老萊子 田真 魯義姑 郭巨 董永 趙孝宗 閔子損 鮑山 曽参 伯瑜 剡子 孟宗 楊香 劉殷 王祥 姜詩 蔡順 陸績 王武子妻 曹娥 劉明達

次に『孝行録』(南葵文庫本による。前賛章のみ)の二十四孝は以下の通りである。 13王武子 14曹娥 1大舜 2老萊子 3郭巨 4董永 5閔子損 15丁蘭 16劉明達 17元覚 6曽参 7孟宗 18田真 8劉殷 19魯義姑 9王祥 10姜詩 20趙孝宗 11蔡順 21鮑山

れ

夫

、

その順番は黒田氏によれば、以下のようになる。

「

」の中は榜題である。 山西稷山金墓馬村M4は「自有編号、自東辺南端逆時針方向順序排列」とされるように、それぞれの孝子に番号が振ら 一十四孝図と『孝行録』の二十四孝を比較すると、過不足なく、一致することが分かる。 更に前掲資料11 Ш 23

22伯瑜 23剡子 24楊香

「二十三」劉明達 「二十四」蔡順 「一」大舜 「二」姜詩 「三」剡子 「四」曹娥 「五」郭巨 「六」王祥 「七」劉殷 「十六」孟宗 「十七」老萊子 「十八」陸績 「十九」伯瑜 「二十」王武子 「二十一」元覚 「九」「趙孝宗」 「十」魯義姑 「十一」閔子損 「十二」董永 「十三」鮑山 「十四」田真 「十五」「丁蘭」 「八」楊香 「二十二」 曽参

「一」大舜のほか、「十五」「丁蘭」は『孝行録』の番号、孝子名と一致する。

更に権準の父である権溥が三十八条(後賛もあり) 物である。李斉賢の序に「嘗命工人画二十四孝図」と記し、図を伴っていたことが分かるが、図は現存しない。『孝行録』 『孝行録』は、元・至正六(一三四六)年、高麗の権準が工人に描かせた二十四孝図に、李斉賢が賛(前賛)を付し、 を追加し、即ち前賛章二十四、後賛章三十八、計六十二条からなる書

している。

(前賛章) に記された孝子名と宋・遼・金の孝子図に描かれた孝子名と一致することは両者に緊密な関係があることを示

7 (図が紹介されていない)、9 (資料に不明点が多い)を除けば、 改めて前掲十四点の二十四孝図を検討する。これらのうち2(原図の拓本に後檔がない)、 四種類に分けることができる。 3 (図が紹介され ていない)、

- 単純な場面構成のもの。 例えば6・11・ 12・13である。
- $\stackrel{\frown}{=}$ 複雑な場面構成のもの。 例えば5である。

単純なものと複雑なものが混合するもの。

例えば1・10である。

(四)(一)の画面を更に単純化したもの。 例えば4・8である。

子と父母のみが描かれて、 来たものとも考えられる。 遼・金の二十四孝図は図柄の細かい変化があるが、 老萊子図が あるため、 めて単純な構成である。 している。 に描かれた人物の他に侍人が増え、丁蘭図に(一)の他に丁蘭の妻が登場し、図像が(一)より複雑である。(三) かの程度で、物語りの根本的な部分は殆ど変わらない。 しかし、(一)と(二)との相違は描かれた人物が一人少ないか多いか、 (四)では、老菜子図で親が一人しか描かれないというように、 地域的な区別も見られない++。よって、 の構成を取り、丁蘭図が(二)の構成を取るなど、二十四孝図全体において、(一)と(二) しかし、(一)から(四) 丁蘭図には丁蘭と母のみが描かれるという単純な図像である。(二) までのいずれも図像の表現する孝子譚は基本的に同一である。 これらの図は一 物語の基本的部分は変わらない。また、(一)と(二) 老萊子図と丁蘭図を例にすれば、(一) 種類、 或いは関係の近い二種類の粉本に基づい 他の孝子図も子一人・親一人の形になり、 或いは画面の構成が単純であるか複雑 では、 では、 老萊子図に 老萊子図には老萊 は共に山 とが 即ち である では て出 西に 宋 同 極

方、『孝行録』(前賛章) には工人が描いた二十四孝図があった。『孝行録』 (前賛章) に示される孝子名が宋・遼・金

の二十四孝図と関係をもつことから考えれば、工人が二十四孝図を描くとき、 ある種の粉本があったと考えられる。

=

損″ ところで、従来、 和 古孝子説話資料を用いて説明する。 *孝孫原穀*」などがあり+へ、 中国において、宋・遼・金の古墓より発見された孝子図の説明は大略以下のような形でなされてきた。 趙超氏前掲論文も古孝子説話資料を用いて孝子図を説明している。 例えば「重慶井口宋墓整理簡報」、「嵩県北元村宋代壁画墓」、「関于

ない 師彦灵・唐暁軍氏論文、段鵬琦氏論文のように古孝子説話資料と二十四孝とを区別せずに用いて孝子図を説明する。 のように、忽ち孝子図を元代の二十四孝 3 このように、二十四孝早期テキストである『孝行録』(前賛章)を用いて、宋・遼・金の孝子図を説明する論文は全く が、 古孝子説話資料と二十四孝資料とを混同して孝子図を説明する。 唐突に元の『全相二十四孝詩選』と結びつける。 前章での検討のごとく、『孝行録』(前賛章)と宋・遼・金の孝子図と密接な関係があること、 (著者について前者は郭守正とし、後者は郭居敬とする)と結びつける た。 例えば「洛陽出土北宋画象石棺」、「滎陽司村宋代璧画墓発掘簡報」 例えば「甘粛臨夏金代甎雕墓」三十、 宋・遼・金の孝子 前揭魏文斌

十四孝図として、二十四孝資料を用いて解説しなければならないということ、もう一つは二十四孝資料の中で特に『孝行 これについて、二つのことを考慮しなければならない。 (前賛章) を用いて宋・遼・金の孝子図を説明しなければならないことである。 つは、 宋・遼・金の孝子図はそれ以前の孝子図と区別し、二 図を説明する際まず『孝行録』を配慮すべきである。

比較すると、まず大幅な孝子図における孝子名の入れ替わりが起きていることが分かる。 孝子図は既に後漢時代から存在していた。しかし、後漢・北魏を中心とする孝子図と宋・遼・金を中心とする孝子図を 後漢・北魏に現れた刑渠・三州

ない。 母恩重経』では睒子は「閃子」の形で、丁蘭・郭巨などと一緒に記されている。『事森』(伯三五三六)は以下のようであ 子経』(『法苑珠林』巻四十九)などとして、仏教経典の形式をとっていたが、敦煌変文系断从間伯三五三六や丁蘭本『父 孝子説話資料には見えない孝子である。干。また、剡子(即ち睒子)の話は、『孝子睒経』(『出三蔵記集』巻三) 剡子・楊香などは後漢・北魏の孝子図に見えない。一方、王武子妻・劉明達は敦煌変文にしか見えず、唐以前の孝子図や 義士・朱明・王巨尉・伯奇・董黯・申生・申明・李善・羊公・東帰節女・眉間尺・慈鳥などは宋・遼・金の孝子図に見え 逆に宋・遼・金の孝子図に現れた孟宗・劉殷・王祥・姜詩・陸績・王武子妻・曹娥・劉明達・田真・趙孝宗・鮑山 や『睒

嘉夷圀人也。 父母年老、 並皆言眼。 閃子晨夕侍養無闕、 常着鹿□□□太、 与鹿為伴、 擔瓶取水、 在鹿群中、

る。

この現象について、程毅中氏は重要な指摘をされた。主じ

(以下欠落

字。(中略) 恐怕也不致太晚 伯三五三六巻的故事只摘取了経文中的一段, 伯三五三六巻中 "國" 字写作 "圀", "閃"与"腅"是音譯不同;迦夷国仍用原名,只是用"嘉 還是武氏造的新字。它雖然写於開元二十三年(735)之後, 但

見られ、剡子が他の孝子と共に語られはじめるのも唐以降のこと考えられるのである。 すなわち『新唐書』巻七十六に記される武則天が作った十二字の中の「圀」をもつ伯三五三六は、 武則天以降の成立と

田真などが言及されている。これは古孝子説話資料を基盤にして、敦煌変文の時期に、古孝子伝に代わって、二十四孝が るのは唐以降のことであろう三十。そもそも「二十四孝」という言葉の現存初見資料は周知のように「故円鑑大師二十四 なお趙孝宗は本来「趙孝」(『東観漢記』)とあるが、『類林雑説』巻三に「趙孝宗」とあり、 である『十四。ここには二十四人が揃っていないが、舜・王祥・慈鳥・鴻鴈・郭巨・老萊子・孟宗・呉猛 榜題に 「趙孝宗」と記され

成立したことを暗示しているのである。

変わったと思われるのである。 覚」と記す。 後漢・六朝時代のものである。十年。 魏石牀には ス美術館蔵北魏石棺には に変化がある。 開封白沙鎮出土後漢画像石には 「孝孫原穀」、 これは敦煌本句道興 ・遼・金までに、 榜題に変化がある代表的な孝子は元覚である。 「孝孫棄父深山」、C.T.Loo 旧蔵北魏石棺には「孝孫父不孝」「孝孫父擧還家」、 和林格爾後漢璧画墓には 孝子図に起こった変化は孝子名の入れ替わりだけではない。 『捜神記』 ところが、 「原穀親父」、「孝孫原穀」、 に 宋・遼・金の孝子図ではⅡ—1洛陽出土北宋画象石棺を初め、 「元覚」と作ることと一致する。大。 「孝孫父」などでそれぞれ榜題が記されているが、 元覚図には後漢武氏祠画像石には 「原穀泰父」、後漢楽浪彩篋には 即ち、 唐以降 同じ孝子の図でも榜題 「孝孫」「孝孫父」 「孝孫」、 原穀 これら 上海 は すべ 博物 ミネア は 「元覚」 7 館 ず や図 「孝孫 ポ 元 れ 蔵 北 \$

乗っ メインとなっ した形で一 煌変文の影響であるニキャ。 し宋・遼 董永· 閔子損 については、 応直米一斗倍徳二十」、「舜母父欲徳見舜」、「市上相見」、「舜父共舜語」、「父明即聞時」という十一 使舜逃井灌徳金銭一枚銭賜 ていた車が無くなる。 後漢から宋・ ・金の舜図は殆ど歴山で象と耕す場面のみで、 枚の図に収まった三十八。 た。 後漢 曾参・蔡順・丁蘭・元覚 丁蘭図に ・六朝時代に様々な場面が描かれている。 遼。 老萊子図では、 金まで、 曾参は武氏祠画像石に描かれた は丁蘭が対面するのは母のみから父母となり、 石田時」、「舜徳急従東家井里出去」、「舜父開萌去」、「舜後母負菩互易市上売」、 郭巨図も子を埋める場面だけが残り、 同じ孝子でも唐を境に図像の変遷が見られる。 後漢・六朝時代に升歌図と献酒図の二種類があるが、 (原穀)・義姑・伯瑜であるが、 しかも象は後漢・六朝の舜図にはなかったものである。 「曾母投杼」 中でも寧夏固原北魏墓漆棺画には の内容が脱落し、 図像の変遷はその殆どの孝子図に見られ 董永図は父親が図面から消え、 妻が描かれるようになる「干れ。 両者共通の孝子は舜 母の帰ってほしいという思いに 「舜後母将火焼屋欲殺舜時 来。 の場 遼 面 仙女との 金に 閔損図では から ある。 両者が これ 場 父が 混 面 は 同

いて解釈する必要がある。+。 孝子図も既に二十四孝が成立したあとの孝子図であり、古孝子説話資料を用いて解釈すべきではなく、二十四孝資料を用 十四孝として再編成された時点で、 の孝子図でも舜と同様に、二つ以上の図像は一つに単一化された。即ち、様々な内容の孝子伝が敦煌変文を経由して、二 山に送った図が無くなり、 面がなくなり、 感応した曾参が帰宅した様子を描いている。 賊に向かい合う蔡順が描かれている。 **墾を持っている図像のみとなった。** テキストの内容が単純化したことに伴い、 蔡順は寧夏固原北魏墓漆棺画に描かれた「東家失火蔡順伏身官上」という場 魯義姑図では馬車に乗っていた斉将軍が脱落した。元覚図も祖父を 伯瑜図では伯瑜が背負った剣が無くなった。このように他 孝子図も変遷したのである。 宋・遼・金の

次に、二十四孝資料には三系統があることが知られている。+。

- (一) 孝行録系
- (二) 日記故事系
- 三)全相二十四孝詩選系

孝行録系が収録した孝子は前掲を参照されたいが、 日記故事系は以下のようである(万暦三十九年版巻頭の二十四孝に

よる)。

23蔡順 13老萊子 1大舜 2漢文帝 24黄山谷 14楊香 3曽参 15朱寿昌 4 閔損 5仲由 16王寂 6董永 17丁蘭 7 剡子 18孟宗 8 江革 19姜詩 9陸績 20王祥 10唐夫人 21庾黔婁 11呉猛 22黄香 12郭巨

全相二十四孝詩選系は以下のようである(龍谷大学蔵本による)。

1大舜 12楊香 2漢文帝 13董永 3丁蘭 14黄香 4孟宗 15王裒 5 閔損 16郭巨 6曽参 7王祥 17朱寿昌 8老菜子 18剡子 9姜詩 19蔡順 10黄山谷 20庾黔婁 11唐夫人 21 呉猛

23

県北関宋代甎雕墓、

22張孝張礼 23田真 24陸績 (25)伯瑜

に見られない孝子は、漢文帝・黄山谷・唐夫人・朱寿昌・庾黔婁・黄香・王裒・呉猛である。その中で、黄山谷・唐夫人・ 三系統には収録される孝子の入れ替えが生じている。 日記故事と全相二十四孝詩選に共通して存在し、孝行録 (前賛章)

朱寿昌は宋の人であり、宋・遼・金の二十四孝図には描かれていない。

『孝行録』(前賛章)と『日記故事』・『全相二十四孝詩選』では、その記述が異なる部分が多いが、剡子を例とすれば、

以下のようになる。

琰子入鹿

琰子、迦夷国人也。父母年老、 並患双目。琰子衣鹿皮、入群鹿之中、将取乳以供二親。 遇国王出狩、中箭哀呼、 Ę

曰、我已死、而両親俱死矣。父母聞之慟哭。王遂引至屍所。父母抱屍大哭、振動天宮。

天帝吹薬入口、琰子得蘇。

王今一箭殺三道人。王問其故。

(『孝行録』(南葵本))

鹿乳奉親

剡子性至孝、 父母年老、 倶患双眼、 思食鹿乳。 剡子乃衣鹿皮、 去深山、 入鹿群之中、 鹿乳供親、 狩者見而欲射之。剡

子具以情告、乃免。

(『日記故事』(万暦三十九年版))

炎子

剡子父母年老、倶患双目、 思食鹿乳、 剡子衣鹿皮、入鹿群之中、以取鹿乳。狩者見、欲射之。告訴。乃免。

(『全相二十四孝詩選』(龍大本))

には実際に矢に発射されていない。 これらの三種を比較すると、「中箭」(矢に中る)とするのは『孝行録』のみであり、『日記故事』・『全相二十四孝詩選』 宋・遼・金の孝子図には、 前揭滎陽司村宋代壁画、 嵩県北元村宋代壁画墓、 Ш 西潞城

清水電峡金墓及び河南洛寧北宋楽重進画像石棺=+二などでは剡子が矢に刺された場面が描かれている。

Ξ

現れたのであろうか。 見えず、『日記故事』系16・『全相二十四孝詩選』系15に登場する孝子である。王裒はどうして宋・遼・金の孝子図に 前掲論文にこの図像を「王裒」のものであると推定し、「王怖」は「王裒」の苑字とされる。この王裒は『孝行録』系に 題の図が描かれている。この「王怖」図の内容は、「左上雲端一雷公、右下一人伏地作守護之状」と説明され、 いて考察する。ここでは、二十三人が『孝行録』(前賛章)と一致するが、12陸績を欠き、代わって「王怖」という榜 ここで先に検討を保留した7 III 1 5 山西永済金代貞元元年青石棺 (金貞元元 (一一五三) 年 の二十四孝図 黒田 氏は につ

譚を調べると、敦煌類書『贏金』では以下のように記している。 これは蔡順との関連から考えられる。 前掲3 III | | | 鞏県西村宋代石棺では、「蔡順怕雷」が見える。 王裒譚と蔡順

畏雷:王褒·蔡順母並畏雷,若天雨雷振, 褒即奔往, 繞墳哭:児此在!児此在!願娘莫怕。

また、『太平御覧』巻十三、天部・雷にも、王裒と蔡順を同類の説話として、収録されている。

晋書曰、晋人王褒母生時畏雷。褒至母終後、天雷軱還、 遶墓曰、褒在此、褒在此。

周斐汝南先賢伝曰、蔡順母平生畏雷。 自亡後、毎有雷震、 順軟環塚、 泣曰、 順在此。

山西永済金代貞元元年青石棺図に王怖があるのは、鞏県西村宋代石棺蔡順の怕雷図から変遷してきたのであろう。

16 山西潞城県北関宋代甎雕墓には『日記故事』系・『全相二十四孝詩選』系に見られる王裒・蔡順は『孝行録』 鞏県西村宋代石棺にしても、 山西永済金代貞元元年青石棺にしても、 北方である。また、 榜題のない前掲4Ⅲ

『日記故事』系の江革の更迭が見られた。

曹娥·伯瑜· 王武氏・鮑山・元覚等と一緒に描かれる。 これは『孝行録』と『日記故事』・『全相二十四孝詩選』

甎及びⅢ 県金代甎雕壁画墓、 のように鮑山図と江革図と区別するのであろう。 もう一つは鮑山図と江革図の問題である。 |羅 II | 1 | 4 羅振玉氏蔵孝子烈女甎等に見られると指摘された。 Ш 18 山西壺関南村宋代甎雕墓、 焦作電廠金墓、 江革は日記故事系だけ存在する孝子である。 Ш 鮑山譚と江革譚はそれぞれ以下のようである。 鳥 Ш 1 1 鸞峰石室墓二十三、 遼寧鞍山市汪家峪遼画象石墓、 しかし、これらの孝子図には殆ど榜題がない。 前掲Ⅲ-22b その図は 『甘粛宋元画像甎』 III 1 6 Π 1 2 山西長治市 Ш 所 西聞喜 収 体ど 画

鮑山負箧

鮑山、 字文木、 京兆人也。 養母至孝。 漢末大荒、 以箧負母、 送遚南秦。 路逢群賊問曰、 何故如是、 山以情告之。 相

謂曰、孝子也。与絹数疋

(『孝行録』(南葵本))

行傭供母

後漢江革少失父、 獨与母居。 遭乱負母逃難、 数遇賊、 或欲劫将去。 革輙泣告、 有老母在。賊不忍殺。 転客下邳、 貧窮、

裸跣行傭以供母。便身之物、莫不畢給。

(『日記故事』(万暦三十九年版))

の他、 鮑山と訂正すべきである。しかし、 両者共通するには「負母譚」であるが、 『孝行録』系にしか見られない劉殷・元覚 Ⅱ-14は確かに江革である。だが、 区別は母を背負うとき、 ・曹娥などが描かれる。 鮑山には筺がある。よって、Ⅱ-12、Ⅲ これらの孝子図では既に Ⅱ―14は『日記故事』系しか存在しない江革 『孝行録』 系の鮑山と

橋本草子氏は「『詩選』と『孝行録』 『小学』などの児童教育用の書物や二十四孝図を背景として、この両書も成立したと考えられる」、或いは に 直接の影響関係は無く、 当時、 中国全土にわたって広まっ ていた 『補注蒙求』 一元末から

明の万暦初め頃まで、「詩選」と「故事」とはそれぞれ独立して刊行されていたと思われる」と述べている『平常。しかし、 以上の二例から、改めて三者の成立状況と相互の関連が問題となるのである。

紀ひ

あることにより、今後宋・遼・金の孝子図を解釈する際には、『孝行録』を用いるべきであろう。 ように、唐以降、古孝子説話資料から生まれた古孝子伝の代わりに二十四孝が成立し、『孝行録』がその早期テキストで し、二十四孝の成立が考証されず、『孝行録』を用いて宋・遼・金の孝子図が解釈されることがなかった。既に論述した 致するものが十二世紀の初頭に出現していることが分かった。しかし、中国では、『孝行録』系のテキストが早くに散佚 上述のように、宋・遼・金の孝子図を整理すると、Ⅱ─5 II |-|9 **鞏県西村宋代石棺(北宋宣和七(一一二五)年)のように、『孝行録』(前賛章)に収録された二十四孝と一** 洛陽北宋張君墓画象石棺(北宋崇寧五(一一〇六)年)、

なる三系統成立の問題は今後の課題とする。 ことも分かる。よって、三系統の成立及び刊行は関連する可能性があるとも考えられる。二十四孝のテキストにおける異 いる。 また、二十四孝の三系統における孝子の異同は、王裒と蔡順、 1 5 山西永済金代貞元元年青石棺存在を考慮すれば、この異同が既に北方で現存している資料に起きている 鮑山と江革のように、既に宋・遼・金の孝子図に現れて

墓葬中発現的孝悌図像」(『中国考古学論叢』所収、科学出版社、一九九三年)、趙超氏「山西壺関南村宋代甎雕墓甎雕題材試析」(『文 魏文斌・師彦霊・唐暁軍氏「甘粛宋金墓 "二十四孝" 図与敦煌遺書『孝子伝』(『敦煌研究』、一九九八年三月)、 段鵬琦氏「我国古

注

物』、一九九八年第五期

- 心とする―」(『京都語文』七、二〇〇一年五月)がある。後、『孝子伝の研究』(思文閣出版社、二〇〇一年)に収録される。 唐代の孝子伝図―陜西歴史博物館蔵三彩四孝塔式缶について―」(『京都語文』六、二〇〇〇年十月)、「孝子伝の図―宋・遼・金を中 近年、黒田彰氏は孝子伝図を中心に検討し、「孝子伝の図ー後漢、北魏を中心とする―」(『説話文学研究』三四、 一九九九年三月)、
- 堅滌親溺器」を義婦(王武子妻)に改めるべきと考えられる。 名のうち、「姜肱兄弟互救」を趙孝宗に、「鳥鴉反哺」を田真にそれぞれ改めるべきとされたが、 張增午氏「河南林県関城宋墓清理簡報」(『考古与文物』一九八二年第五期、 一九八二年九月)。黒田氏は張氏論文で比定された孝子 更に 「鄧攸捨子」を劉明達に、
- 四 九八七年)図版六三、『中国画像石全集』八石刻線画(河南美術出版社、二〇〇〇年)図版一八七—一九〇。 黄明蘭・宮大中氏「洛陽北宋張君墓画象石棺」(『文物』一九八四年第七期)、『中国美術全集』 絵画編19(上海人民美術出版社、
- 六 五. 王進先・陳宝国氏「山西潞城県北関宋代甎雕墓」(『考古』一九九九年第五期)。 鞏県文物管理所・鄭州市文物工作隊「鞏県西村宋代石棺清理簡報」(『中原文物』一九八八年第一期、一九八八年三月
- 七 山西省文物管理委員会、 一九六○年十月)、『中国美術全集』絵画編19(上海人民美術出版社、一九八七年)図版七一。 山西省考古研究所「山西芮城永樂宮旧祉宋徳方、 潘徳冲和 『呂祖』墓発掘簡報」(『考古』一九六〇年第八
- 墓に描かれた二十四孝図と同じとされるが、後者は未見。 山西省考古研究所晋東南工作站「山西長子県石哲金代壁画墓」(『文物』一九八五年第六期)、 本壁画は山西沁源県正中村金大定八年
- 九 張青晋氏「山西永済発見金代貞元元年青石棺」(『文物』一九八五年第六期)。
- 長治市博物館・王進先・朱暁芳氏「山西長治安昌金墓」(『文物』一九九〇年第五期)。
- 十一 陳履生·陸志宏氏編『甘粛宋元画像甎』(人民美術出版社、一九九六年)。
- 考慮する必要があり、 前掲注一魏文斌・師彦霊・唐暁軍氏論文を参照されたい。二十六枚孝子図があると紹介されたが、 提繁は趙孝宗、 劉平は魯義姑であろうと考えられる。いずれにしても、 前掲注十一と共に資料収集完成次第に、 緹縈• 劉平につい ては改めて

さらなる検討が必要がある。

社、一九九九年)。 山西省考古研究所「山西稷山金墓発掘簡報」(『文物』一九八三年第一期)、山西省考古研究所『平陽金墓甎雕』(山西省人民出版

十四四 九八一三〇七。 山西省考古研究所「山西新絳南范庄、呉嶺庄金元墓発掘簡報」(『文物』一九八三年第一期)、注十三前掲 『平陽金墓甎雕』 义

十六 前掲十三『平陽金墓甎雕』。

前掲注一段氏論文では「鑒于墓葬中各種不同組合的二十四孝悌人物故事的実際存在和毎種組合内人物故事内容的相対穏定、 在宋金時期、 豫西·晋南地区很可能流伝着内容大同小異的多種二十四孝悌故事藍本、 各種藍本流伝的地域有所不同」と指摘し

十八 重慶市博物館歴史組「重慶井口宋墓整理簡報」(『文物』一九六一年第十一期)、洛陽市第二文物工作隊 (『中原文物』一九八七年第三期、 一九八七年九月)、王増新氏 「関于 "孝子閔損" 和 "孝孫原穀」(『文物参考資料』 一九五八年第十 「嵩県北元村宋代壁画

十九 黄明蘭氏「洛陽出土北宋画象石棺」(『考古与文物』一九八三年第五期、一九八三年九月)、鄭州市博物館 掘簡報」(『中原文物』一九八二年第四期、一九八二年九月)。 「滎陽司村宋代璧画 一墓発

臨夏回族自治州博物館「甘粛臨夏金代甎雕墓」(『文物』一九九四年第十二期)。

二十一金文京氏「『孝行録』の「明達売子」について一二十四孝の問題点―」(『汲古』一五、一九八九年六月)、「『孝行録』と「二十 年一期)に指摘された。 四孝」再論」(『芸文研究』六五、一九九四年三月)、唐長寿氏「据敦煌変文考釈画像、王武子和劉明達」(『敦煌研究』二二、一九九〇

二十二 程毅中氏「敦煌本 "孝子伝』与睒子故事」(『中国文化』五、一九九一年、生活・読書・新知三聯書店)。「圀」字に関して、 (『京都語文』七、二〇〇一年五月) を参照されたい。 杰氏の「关于武則天 "新字』的几点认识」(『故宮博物院』一九九七年四期) | | 下下では、「下ででは、「下ででは、「下ででは、「できない。」。」。 | 「下ででは、「できない。」。」。 | 「「では、」、「では、「できない。」。 を参照されたい。 なお、 剡子について、 坪井直子氏の

前掲注二黒田彰氏『孝子伝の研究』二章3節

道端良秀氏『唐代仏教史の研究』(法蔵館、一九五七年)を参照されたい。

前掲注二黒田氏「孝子伝の図―後漢、北魏を中心とする―」。

高橋文治氏「原穀・元覚考」(『東洋文化学科年報』第十号、一九九五年十一月)。

坪井直子氏「舜子変文と『二十四孝』―「二十四孝」の誕生―」(『仏教大学大学院紀要』二九、二〇〇一年三月)。

四集に掲載する予定。 拙稿「二十四孝の孝―老菜子孝行説話を中心に―」(日本中国学会第五十三回大会口頭発表による)は『日本中国学会報』

二十九 拙稿「丁蘭考─孝子伝から二十四孝へ─」(『和漢比較文学』第二十七号、二○○一年七月)。

宋・遼・金以降、 二十四孝の三系統のテキストに含まれる孝子以外の孝子は殆ど描かれていない。

三十一母利司朗氏は「『全相二十四孝詩選』考―日本近世における『二十四孝』享受史の諸問題―」(『東海近世』四、一九九一年九月) 徳田進氏の説(『孝子説話集の研究―二十四孝を中心に―』、井上書房、一九六三年)の説を総括して分類したのである。

三十二

李献奇·王麗玲氏「河南洛寧北宋楽重進画像石棺」(『文物』一九九三年第五期)。

いて一二十四孝図研究ノートその三一」(『人文論叢』四六、一九九八年)。 墓」(『文物』一九九七年第二期)、山西省考古研究所、山西省聞喜県博物館「山西省聞喜県金代甎雕壁画墓」(『文物』一九八六年第十 (『中原文物』 一九九〇年第四期、 王進先・石衛国氏「山西長治市五馬村宋墓」(『考古』一九九四年第九期)、長治市博物館・壺関県博物館 及び『中国美術全集』絵画編(文物出版社、一九八九年)図版一八一・一八二、焦作市文物工作隊「焦作電廠金墓発掘簡報」 橋本草子氏「『孝行録』と『全相二十四孝詩選』所収説話の比較」(『人文論叢』四四、一九九六年)、「「日記故事」 一九九〇年十二月)、鳥居龍蔵氏『遼代の画像石墓』(『鳥居龍蔵全集』五、 朝日出版社、 「山西壺関村宋代甎雕 一九七六年)。 の版本につ

りょう おん 中国哲学